

日本海水学会第 10 回若手の集いを終えて

石川匡子

日本海水学会第 61 年會に先立ち、第 10 回若手の集いが開催されました。年會の地方開催では、地域の特色や産業を鑑みキーワードを決めて、日本海水学会の研究と関連が深い工場の見学会を企画しております。今回の開催地近隣の仙台市は、東北随一の都市であるため、仙台市で工場見学を実施し、石巻までのバス中で会員間の交流を深めることにしました。今回は“水処理”をキーワードとし、見学会場を東北電力株式会社新火力発電所とキリンビール株式会社仙台工場にしました。東北電力新火力発電所では、初めにスライドを用いて、発電所内の設備、近隣の発電所並びに電力源の供給について詳しく説明をいただきました。普段身近な電力も、発電所内の様子、特に海水の利用については知らないことが多く、冷却用の海水を排水する際、冬場に近隣で行われている海苔養殖の妨げにならないように、排水口を変えているという話は非常に興味深かったです。その後、発電所内部へ移動し、蒸気タービン、中央指令室を見学しました。数年後には同じ敷地に新たに発電設備を建設予定とのことでした。キリンビール仙台工場では、通常の見学コースに加えてろ過設備の様子について説明いただきました。ろ過膜の研究者から多くの質問があり、そのやり取りを聞いているだけでも、とても勉強になりました。工場内で出た廃水をきれいな水に戻してから排水しているという廃水処理施設も見学させて頂き、先進工場では衛生管理に加えて環境へも配慮していることを改めて実感しました。その後はお決まりの試飲体験。工場で味わう“一番搾り”は格別なものでした。両社とも排水施設など環境設備には気を配っていること、その一部は我々の研究と密接であるということが実感できたことは、非常に有意義であったのではないかと思います。昨今、インフルエンザの大流行、HACCP による衛生管理の強化により見学を受け入れてくださる工場が減ってきていますが、特別に内部へのお見学も許可していただいた両社には深謝いたします。その後バスで移動し、懇親会を石巻駅前の居酒屋で行いました。石巻の特産であるマンボウ、くじら、金華鯖のお刺身、石巻焼きそばを味わうことができました。途中からは評議委員の先生方も合流してくださり、さらに会話も弾み、活気あふれる楽しいひとときを過ごしていただけたのではないかと思います。ここ数年、若手の集いは年會終了後の開催が多かったため、30 名を超える多くの方々に参加していただいております。今回は、年會前日ということもあり、24 名と例年より少ない参加者となってしまいましたが、若手の研究者間での交流の成果としてポスター発表での活発な討論に繋がったのではないかと思います。

実は、今回の「若手の集いは」記念すべき第 10 回でした。私は、第 1 回から出席しており、第 10 回の実行委員長になったのも何かの縁なのかなと思っています。第 1 回は九州大学の後藤雅宏先生が中心となって、今後若手の集いはどうあるべきかということをお話し合

いました。学会誌第 55 巻 4 号後藤先生の手記によると、今後は若手の集いを年会の恒例行事にする、年会開催地の特徴を生かした運営方法を工夫する、気軽に参加できる会を希望する、会誌に若手のコーナーを設けてほしいなどの意見が出されていました。今にして思えば、若手の集いが毎年開催され、最初の懇親会形式から、開催地区の特徴を生かした見学会や学会誌での若手特集号の企画など、10 年前に描いた目標は一つ一つ実現されました。これも尾上薫学会会長を始めとする学会の諸先生方の多大なご支援によるものと感謝しております。若手会会長の市村重俊先生を中心にしたチームワークの良さで、大学、研究所、企業に所属するメンバーそれぞれの立場から一つの企画を作り上げきた様子を振り返ると、この 10 年は我々幹事にとっても成長の時期であったと感じています。最近、学生さんの活動も活発になり、随分若手会を盛り上げてくれています。今回の見学会で写真撮影をしてくれた千葉工業大学の和田善成君、若手会の行事に積極的に参加してくれた山口大学の西村恵美さんどうもありがとうございました。今後、若い研究者の皆さんが大学を卒業し社会へ羽ばたき、異なる分野へ進んだとしても、ふとした時にこの若手会の活動を思い出してくれたら幸いです。



見学会の様子（東北電力新火力発電所）



見学会の様子（麒麟ビール仙台工場）



集合写真（麒麟ビール仙台工場にて）



懇親会の様子